

埼玉県立がんセンター レジデント募集中！！

～先輩レジデントからのメッセージ～

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ①



歯科口腔外科レジデント
角谷 宏一
(R3～)

埼玉県立がんセンター歯科口腔外科レジデントの角谷です。私は広島県の福山市民病院で研修を受けた後、母校の岡山大学病院口腔外科で口腔外科臨床に従事しておりました。口腔外科診療に携わるうち、癌治療に対する専門的な知識や技術を習得したいと思うようになり、当院レジデントに応募させて頂きました。現在歯科口腔外科は常勤医3名、レジデント3名、非常勤医2名(補綴科)の体制で、年間120例以上の口腔癌の治療を行っています。病院の性質上、症例の大部分は悪性腫瘍が占めています。多数の症例に対して、口腔外科上級医とディスカッションを通して得られる経験は、口腔外科として成長するにあたって非常に良い蓄積になると考えています。

また当科での診療は口腔の悪性腫瘍のみでなく、周術期口腔ケアも行っています。術前の口腔内診察に加え、化学療法前や骨髄移植前の口腔ケア、口腔粘膜障害予防にも携わっており、口腔領域に以外の悪性腫瘍の患者様の治療に関わる機会も豊富にあります。様々な領域から得られる経験も、これから悪性腫瘍の治療に携わる医療者にとって非常に貴重な経験になると思います。口腔癌に興味がある口腔外科医はぜひ、当院に見学に来てください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ②



消化器外科レジデント
菅原 弘太郎
(R3～)

埼玉県立がんセンター消化器外科レジデントの菅原です。私は千葉県旭中央病院にて3年間一般外科研修を積んだ後にもともと学生時代より興味があった食道手術領域を専門的に学ぶために2016年に東京大学胃食道外科に入局し、その後病棟医・大学院生として「がん治療用ヘルペスウイルスを用いた研究」を行い、2021年4月より当院の食道外科にて学ぶ機会を頂きました。

食道手術を体系的に学ぶことができる施設は大変限られております。当科では確立された厳密な郭清手技による胸腔鏡手術をはじめ、食道手術を年間60例近く行っており、全ての手術に参加することができるため、ひとつひとつの手技について徹底的に深く学ぶことが可能です。また他科の先生との合同カンファなどにより最先端の食道癌臨床に触れる機会も多く、食道癌の集学的治療に触れる機会が数多くあります。また食道領域のみならずさまざまな消化器外科領域のエキスパートの先生の手術を見学することができるため、大変刺激になります。さらに病理部を始め臨床研究を行う土台も確立されており、基礎的な面からもoncologyを突き詰めていくことができます。食道領域に興味のある先生、是非一緒に働きましょう。お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ③



消化器外科レジデント
朝倉 孝延
(R3~)

埼玉県立がんセンター外科レジデントとしてお世話になっている朝倉孝延です。研修医になってから大学病院で働かせていただき、食道胃外科に入局しました。働いていく中で、胃手術、腹腔鏡手術を中心に学びたいと思っていたタイミングでこちらのお話をいただき、是非とも学ばせていただければと思い応募させていただいた次第です。まだまだ手術、特に腹腔鏡手術の経験が少ないこともあり大変だとは思いますが頑張りたいと思います！

レジデントは合計3年間のシステムとなっており、1年目は消化器外科食道・胃・大腸・肝胆膵の4科を3か月ローテーションします。2、3年目は希望科に所属となります。

ローテーションさせていただくことで、各科の手術に触れることができるので今までとはまた違った見方ができたりと、良い経験になると思っています。

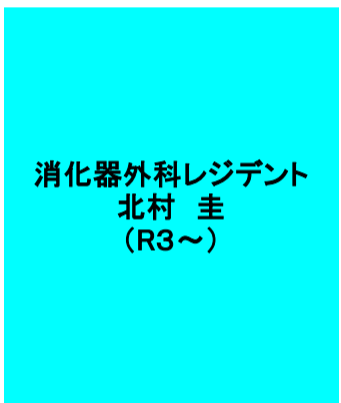
レジデントの皆さんは手術はもちろんのこと真剣に勉学に励んでおりとても刺激になりますし、手術ビデオ等でスタッフの先生方から指導いただけたりと、勉強させていただく上ですごく良い環境だと感じております。

私は胃外科希望ですので来年からは胃外科でお世話になります。

当センターは緊急症例等が少ないこともあり、自分の時間を持つことができ希望に沿って有意義なレジデントライフが送れると思います。

是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ④



消化器外科レジデント
北村 圭
(R3~)

私は卒後8年目で消化器外科のレジデントになりました。消化器外科は食道、胃、肝胆膵、大腸の臓器別グループに分かれており、1、2年間のグループ専属コースまたは各グループをローテーション後に専門グループで専属する3年間のコースを選択できます。私は3年間のコースを選択しましたが、初年度に出産・育児のイベントがあり、3ヶ月の休暇が必要となったため、ローテーション期間を短縮調整していただきました。復帰後は院内保育を利用でき、無理なく研修を行うことができました。出産・育児と仕事の両立には家庭や自治体等のサポートが必要と考えますが、タイミングによってはそれを活用できない場合もあります。その点、職場のサポートがあると復職に合わせて微調整ができます。また相談しやすい環境は両立をしていく上でとても助かります。

現在は、肝胆膵グループでの専門研修をおこなっております。肝胆膵領域は高難度で専門性の高い症例が多いため、執刀の機会を得ることが難しいですが、当施設では習熟度に合わせて執刀することができます。また、手術手技だけでなく、内科・画像診断科との合同カンファレンスや研究活動を通して、治療方針や癌に関する知識をupdateすることができます。当施設での研修に興味のある方はぜひ見学に来てください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑤



消化器内科レジデント
稲本 林
(R3~)

消化器内科レジデントの稲本です。

私は市中病院の消化器内科で働いていましたが、以前より癌診療を専門に勉強したいと思っており、当院の研修を志望しました。

当科は言うまでもなく、癌の治療に特化しています。

ですから、がん薬物療法専門医が消化器内科には6名在籍しており、質の高い専門研修を受けることができます。

また、他院では治療が困難な方や治験を希望される方が受診されることも多いため、標準治療だけではなく、臨床試験や治験についても学ぶことができます。

実際に研修をしてみると、カンファレンスでは外国語のような言語が飛び交っており、最初こそ頭の中は「？」でいっぱいでしたが、日ごとに理解できるwordが増えてきたような気がします。

私自身はまだ未熟ではありますが、親身に指導して下さる先生方に囲まれて有意義な毎日を送っています。

当科は、癌治療に専念できる環境であり、自分の興味のある分野に関しては掘り下げて学べる環境にあると感じています。興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑥

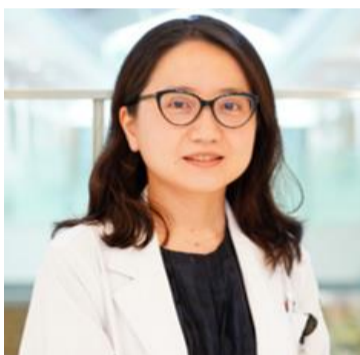
乳腺外科レジデント
小寺 麻加
(R5~)

乳腺外科レジデントの小寺です。私は大学病院で乳腺外科として勤務していました。多くの乳癌診療経験を積み、また今まで自施設では学ぶことができなかった分野についても研修したいと考え、当院での研修を志望しました。

乳癌治療は手術だけでなく、薬物療法や放射線治療、緩和ケアに至るまで多岐にわたり、また近年ではがんゲノム医療の登場もあり、さらに治療の幅が広がっています。がんセンターでは各分野の専門家から学べるという点で、とても良い環境だと思います。当院では乳腺内科という乳癌薬物療法を専門とする診療科が独立しており、外科と連携しながら診療を行っています。(乳腺内科という診療科があるのは珍しいかと思います。) 乳腺外科の研修というと手術が中心となる施設も多いですが、当院では乳腺内科をはじめ他の診療科でも研修できることが大きなメリットかと思っています。外科領域においても症例は多く、また乳房再建も形成外科と連携し積極的に行っており、沢山の症例を経験できると思います。

私はまだ主に外科を中心に研修中ですが、今後は遺伝科や病理診断科、緩和ケアなど学びたいことがたくさんあります。先生方に熱心にご指導いただきながら、日々充実した研修を送らせていただいています。興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑦



内視鏡科レジデント
笹部 真亜沙
(R5~)

埼玉県立がんセンター内視鏡科レジデントの笹部です。私は卒後10年目で、内視鏡診断・治療を更に学びたいと思い応募しました。

実際に埼玉がんで働いてみると、内視鏡検査も治療も症例が豊富で充実した研修を送れています。そして、当院内視鏡科の一番の魅力はその雰囲気にあるかと思っています。親切な優しい先生方ばかりですので、気軽に相談ができます。また、ESDもレジデントが行う際はスタッフの先生が付いてくれているので、安心して治療ができます。

治療方針が困る症例は、消化器外科・消化管内科とカンファレンスが行われており、治療方針を相談できます。そういった意味でも勉強になると思います。

レジデント応募を悩まれている先生方、ぜひ一緒に内視鏡をしましょう！ご応募お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑧

消化器外科レジデント
柿澤 奈緒
(R5~)

2023年4月に大腸外科のレジデント研修を開始いたしました。

約5か月経過したところですが、当院は低位の直腸癌や多臓器浸潤癌の症例が大変多いと感じています。

剥離層の美しいロボット手術や、他臓器合併切除に参加することができ、骨盤内の解剖を改めて勉強しなおしています。

内視鏡外科技術認定だけでなく、専門的な大腸外科を志している医師に、特にお勧めします。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑨



消化器外科レジデント
藤沼 八月
(R5~)

私は卒後10年目で埼玉県立がんセンターの消化器外科レジデントとして勤務しています。肝胆膵外科専攻ですが、3年コースで応募し、消化器外科各科(胃外科、食道外科、大腸外科、肝胆膵外科)を3カ月ずつローテーションしています。現在は胃外科を研修した後に食道外科で研修をしています。

私は防衛医大卒で病院で常勤として勤務できていたのは初期研修を含めた5-6年程度でしたので、1年間各科をローテーションすることによりまた新たに消化器外科医として知識や技術を習得することができています。また、カンサーボードなどで他科の先生方とのカンファレンスを通じ、放射線や化学療法など癌治療に関する知識を幅広く学ぶことができます。

また、当院は緊急手術も少なく、自己研鑽をできる時間が多く持てるのも特徴かと思えます。その間は手術の復習予習、学術活動等に十分に時間を割けるためその点においても有意義な研修ができると思います。

興味があれば是非とも見学にいらしてください。お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑩



消化器外科レジデント
野村 悟己
(R5~)

卒後7年目で当院消化器外科レジデントの野村です。私は、岡山県の倉敷中央病院で後期研修含め4年間研修を積んでから当院に赴任しました。

倉敷で肝胆膵高難度手術並びに腹腔鏡下肝切除・膵切除の研鑽を開始していたため、肝胆膵外科2年研修プログラムに応募しました。

当院の肝胆膵外科は、肝胆膵高度技能専門医及び内視鏡技術認定医の資格を有するスタッフの指導の下、多くの手術の執刀機会が与えられます。

また、毎週行われているカンファレンスで治療方針の決定など学ぶ機会が豊富です。私も、肝胆膵高度技能専門医ならびに内視鏡技術認定医取得に向けて日々研鑽を行っています。同じ目標を持っている方は是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑪

消化器外科レジデント
高橋 彩乃
(R5~)

当院消化器外科は食道・胃・大腸・肝胆膵の4つのグループからなり、研修は1年間のローテーション後に2年目から専門科に進む3年間のコースと、1-2年間の専門研修を行うコースの2つがあります。これまで市中病院で勤務していたこともあり、まずはそれぞれのグループで専門的に癌診療を学びたいと思い、前者のコースでお世話になっています。

カンファレンスでの治療方針検討や、実際の手術および手術ビデオの振り返り等、多くの指導を受けることができ、とても勉強になります。

また、一般病院と異なり、緊急手術等は少ないため、癌診療について集中して勉強・研究を行うことが出来ます。当施設での研修に興味がある方は是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑫



歯科口腔外科レジデント
丸田 上
(R5~)

埼玉県立がんセンター口腔外科レジデントの丸田です。私は都内の病院で2年間の研修をした後、東京医科歯科大学大学院で口腔外科診療を行っておりました。顎変形症の治療が大部分を占めており癌治療は全くと言っていいほど触れたことがなかったため、このままでは全く癌が診られないことを危惧し当院レジデントに応募させて頂きました。当院はその名の通り、ほとんどが癌患者のため勉強の毎日であり口腔がんの専門的な知識や技術を習得できるため口腔外科医として成長できる恵まれた環境であると思います。

また、当科は口腔がん治療だけではなく周術期口腔ケアや他科からの口腔内診察依頼があります。口腔領域だけではなく全身の各領域のがん患者にも接するため他科の先生と連携する機会も多く、これからがん患者の治療に携わる先生方にとって貴重な経験になると思います。

最初は右も左も分からない状態でしたが、上級医やレジデントの先輩が丁寧に指導してくれるため成長が実感できる充実した毎日を送れています。口腔がんについて興味がある方にとって当院はいくらでも学べる環境があるため、少しでも気になったら是非一度見学にいらしてください。